

FMアップルウェーブ 第108回放送番組審議会

開催日時	平成30年2月17日(土) 12:00~13:00
開催場所	土手町コミュニティパーク地域交流室(弘前市土手町)
出席委員	委員長 石岡 徹、副委員長 鳴海 清彦 委員 佐藤 浩之、渋谷 拓弥、高村 智子、太田 真理子、大西 晶子、櫻山 史子
会社側出席者	代表取締役社長:清藤 哲夫、専務取締役:一戸 勝美、 放送部統括マネージャー:花田 由香子、チーフ:玉田 雅規
議題	(1)番組に対する意見要望 (2)次回開催日について 4月28日(土)
議事の概要	<p>○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。</p> <p>1) 課題番組『夜はきままに！第3木曜』 (月曜～金曜20:00～ 放送)</p> <ol style="list-style-type: none">① 地元出身の東京で活躍するアーティストが電話で出演していたが、そのアーティストの魅力を引き出すような詳細には触れていなかったため、初めて知った人も思い入れを持つような情報を引き出してほしかった。音楽、文学、酒の三本柱の番組だが、一つに絞って深く掘り下げてほしい。② 番組としては殺風景な印象。番組冒頭ではフルネームできちんと自己紹介すべき。楽曲に対して、『〇〇をイメージした』という表現があったが、それが何を指しての表現なのかがわからない。東京で活動するアーティストとの電話インタビューでは、その相手が東京にいるのか地元にいるのかわからないので、どこで電話をしているのかを言うべき。③ 聞きやすい声ではあるが、巻き舌があったり、かすれがあったりして聞き辛い場面があった。地元アーティストの情報が少なく、内輪ネタ中心だったので、アーティストとしてのしっかりした紹介がほしかった。地元アーティストに特化した番組作りもよいのでは。入浴時に飲酒するという話は放送上ふさわしいのか疑問。④ 市民参加の番組というスタンスであれば、しっかりCAST会員の説明と募集をしてほしい。説明したうえで聴くと、聴く側の受け止め方が変わる。アップルウェーブ制作の情報番組とは聞く側も棲み分けできるのでは。⑤ 内容は盛りだくさんであるもこれも、という印象。まるで若い落語家が話しているかのような口調の場面もあり、どういった仕事をしているのか興味を持った。ラジオサークルOBというだけで、ここまで饒舌になるものかと気になった。⑥ 冒頭、元気がない印象だったがだんだん個性が出てきた印象。担当パーソナリティへの興味がわく話し方。出演していた地元出身アーティストをもっとフィーチャーしてほしかった。Twitterも活用して番組を盛り上げていた。サイマル放送にも対応しているため、インターネットで幅広くコミュニケーションをとれる番組になるのでは。⑦ 担当パーソナリティと出演アーティストの関係性・立ち位置をきちんと紹介することで、リスナーも同じテーブルに導いてほしい。三本柱の構成に加えてテーマを設けており、しっかり関連付けていた。ミキサー操作が粗雑に感じた。⑧ 個性的な話し方で、好感が持てた。エピソードからも只者ではない雰囲気を感じて興味がわいた。地元出身のミュージシャンを育てるという意味でもよい番組。盛りだくさんの印象もあり、文学と音楽を無理やり関連付けなくてもよかったのでは。タイトル通り、気軽に聴ける番組であった。 <p>【審議機関の答申または改善】 ・毎回話している内容、何度も取り上げている情報であっても、初めて聴いた人でもわかるように伝えていくこと。</p> <p>【審議機関の答申または改善意見の公表】 1) 議事録を本社に配備し、社内各部署に配布 2) FMアップルウェーブのホームページに掲載</p>